

平成20年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第1問（配点30点）

当該企業の財務諸表と同業同規模の健全企業の財務諸表が与えられた場合、経営指標から当該企業の問題点を発見する経営分析能力を問う問題である。

第2問（配点25点）

（設問1）

現金支出を伴う操業費が10%で増加する場合に、税引前営業キャッシュフローの現在価値を求める分析能力を問う問題である。

（設問2）

現状のまま経営が続けられた場合、現金支出を伴う操業費の増加がD社全体の業績にどのような影響を与えるのか、あるいは将来的な見地から現在どのような対策を講じるべきか、についての分析能力と提案能力を問う問題である。

第3問（配点25点）

（設問1）

設備の取り替えが行われた場合、既存設備の売却損や新設備稼働など種々の要因によって、予想税引前純利益がどのように変化するかについて分析する能力を問う問題である。

（設問2）

設備の稼働期間中に借入金が半分ずつ返済される場合に、負債の節税効果がどの程度になるかについての分析能力を問う問題である。

第4問（配点20点）

（設問1）

設備の取り替えに伴う資金調達に全額負債を利用する場合に、財務上の問題発見能力を問う問題である。

（設問2）

D社では、仮に経営権が他社に移動した場合、従業員のモチベーションに多大な影響が生じると懸念されている。このような状況で、過半数を超える出資の受け入れを可能にするために、どのような方策が考えられるかについての問題解決能力と提案能力を問う問題である。

以上